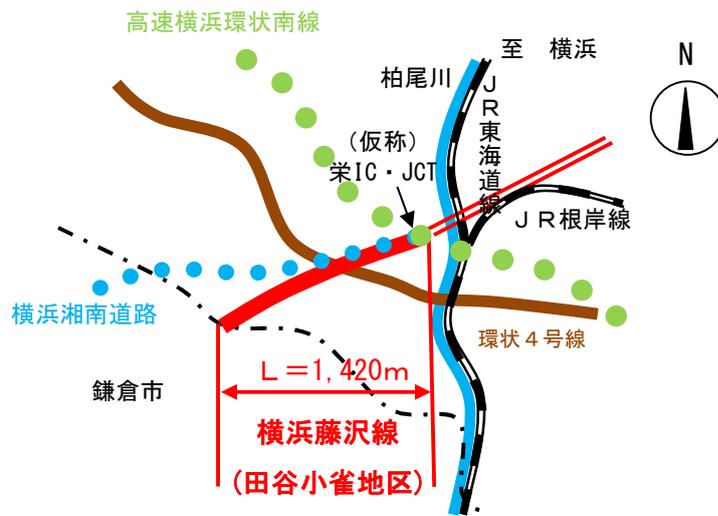


再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：都市局 街路交通施設課
担当課長名：服部 卓也

事業名	高規格ICアクセス 都市計画道路横浜藤沢線（田谷小雀地区）	事業区分	街路	事業主体	横浜市
起終点	自：神奈川県横浜市栄区長尾台町 至：神奈川県横浜市戸塚区小雀町	延長	1.4km		
事業概要					
<p>都市計画道路横浜藤沢線は、横浜市の道路網の骨格を形成する3環状10放射道路の一部を構成する道路である。</p> <p>横浜藤沢線（田谷小雀地区）は、首都圏中央連絡自動車道の一部区間である横浜環状南線及び横浜湘南道路の出入口となる（仮称）栄IC・JCTに接続し、栄区及びその周辺からのアクセス性を高め、横浜環状南線及び横浜湘南道路の利便性を向上させるものである。</p>					
H14年度事業化		S44年度都市計画決定		H14年度用地着手	
H29年度工事着手					
全体事業費	約207億円	事業進捗率	約68%	供用済延長	— km
計画交通量	20,600～30,300台/日				
費用対効果	B/C (事業全体) 3.2 (残事業) 15.9	総費用 (残事業)/(事業全体) 55/273億円 事業費：53/270億円 維持管理費：2.5/2.5億円 更新費：0.0/0.0億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 874/874億円 走行時間短縮便益：816/816億円 走行経費減少便益：56/56億円 交通事故減少便益：1.8/1.8億円	基準年	令和5年
感度分析の結果					
<p>(事業全体) 交通量：B/C=2.3～4.0（交通量±10%） (残事業) 交通量：B/C=11.2～19.7（交通量±10%）</p> <p>事業費：B/C=3.1～3.3（事業費±10%） 事業費：B/C=14.4～17.7（事業費±10%）</p> <p>事業期間：B/C=2.5～3.5（事業期間±20%） 事業期間：B/C=12.9～17.5（事業期間±20%）</p>					
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 横浜市南部地域から、横浜市中心部、鎌倉市域及び藤沢市域へのアクセス機能が向上する。 ・ 横浜環状南線及び横浜湘南道路の（仮称）栄IC・JCTに接続し、東名高速道路や横浜横須賀道路等へつながるため、首都圏各地との連携強化及び利便性の向上に寄与する。 ・ 両側に幅員3.0mの歩道が整備されるため、歩行者の安全性が確保できる。 					
関係する地方公共団体等の意見					
「横浜市幹線道路網建設促進協議会」等の民間団体からも事業区間の早期整備の要望がある。					
事業評価監視委員会の意見					
事業の継続必要性が認められる。					
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等					
令和4年8月に横浜環状南線及び横浜湘南道路の開通時期について、公表されていた横浜環状南線の令和7年度、横浜湘南道路の令和6年度開通の延期が決定。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
用地取得率約88%、事業進捗率約88%					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
残る用地の取得を継続している。今後は早期完了を目指し、街築工事や水路工事等を推進していく。					
施設の構造や工法の変更等					
設計の際にコストを意識した構造及び施工方法の検討を行っている。また、舗装・構造物の基礎等については、再生材を使用する等可能な限りコスト縮減に努める。					
対応方針					
事業継続					
対応方針決定の理由					
事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。					

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。